

第1部 基調講演

奇跡をもたらすネットワーク！

“おせっかい”が繋ぐ
子ども×地域×社会

NPO 法人 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク

理事長 栗林 知絵子さん

「遊ばせたい」の気持ちがきっかけ

奇跡をもたらすネットワークというテーマですが、私達が何をやっているかという、地域でやってみたいことを、小さい事ですけど、みんなで実現していく。これがつながる中で、さまざまなネットワークができていきました。誰が計画を立てて、誰がリーダーになって、作ったものではありません。みんなで考え、みんなでつながってできたものです。

私の初めの一步はプレイパークですね。神奈川県にもずいぶんプレイパークがあると聞いております。



私は昭和41年生まれです。私が子どもだった時は、街自体がプレイパークでした。学校から帰ってくると近所の子どもが路地だったり空地だったりに集まって、子ども同士で遊んでいました。そういう中で私は生まれ育って、いっぱいいろんな人におせっかいさ

れて、大きくなって、東京へ出て、池袋で嫁ぎ、そして子どもを産みました。

子どもを産んでみると、豊島区には公園がありません。土もないんですね。こんなところでどうやって、私のように、“いっぱい遊んだ”という経験を自分の子どもにさせてあげられるのだろうかと思いました。そんな時に、豊島区が事業としてプレイパークを作りました。自治会から動員がかけられ、私は自分の子どものために参加する。こんなふうプレイパークの青写真ができていったんですね。

見えないけれども“いる”

実際にプレイパークができてみると、活動に関わるのは私だけでした。立ち上げに関わった自治会の皆さんは会議には出てきますが、直接プレイパークに足を運んで子ども達と話したり一緒に遊んだりする人達がいなかったんです。

私はそこで色々な子ども達に出会いました。大人はプレリーダーが2人と私ぐらいしかいませんので、子ども達は私とも色々な話をします。そんな中、「昨日からご飯食べていない」って子や「引っ越して来る前は車の中で住んでたんだよ」っていう子もいることに気がきました。すごい傷のついた携帯ゲーム機を私に見せて「この傷はママが酔っ払って包丁を突き刺した跡だよ」とか。そんなことを吐露してくる子がいたんです。私の知らないような環境で暮らしている子ども達がこの街にいるんだと感じました。そんな子ども達との出会いや、たまたまニュー



若い発想と、
最近の理屈だけで
世の中のことを語ってしまうと、
穴だらけなことを見落とす。